

新南陽の景況感

調査概要

- 調査対象期間** 2023年7月～9月（現状）における景況感、2023年10月～12月（今後）における景況見通し
- 調査対象** 新南陽地域の企業83社
- 調査方法** 商工会議所経営指導員等職員の巡回相談時に調査票回収
- 調査項目** 「業況」、「売上高」、「採算」、「仕入単価」、「従業員」、「設備」、「資金繰り」

産業全体

業況D-Iは若干回復するも、以前マイナスの値を示し、足踏み状態が続く。先行き見通しは悪化傾向にあり、売上高や採算を不安視する状態が続く。

新南陽地域の2023年7月～9月期の業況D-Iの全産業合計値は▲25.0%となり、前期調査（4月～6月期）よりもマイナス幅が20.93ポイント縮小（改善）した。全国の「第173回中小企業景況調査（中小企業基盤整備機構）」全産業の業況D-Iのマイナス幅は2ポイント拡大（悪化）している。

新南陽地域の今後3カ月先行き見通しの、全産業合計値のマイナス幅は拡大（悪化）する見通しとなっている。全国の今後3カ月の先行き見通し「第173回中小企業景況調査」の全産業合計値のマイナス幅は縮小（改善）する見通しとなっている。

全国的には卸・小売業がインパ

DI（景気判断指数）値とは？

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率をしめすものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

DI = (増加・好転などの回答の割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化)

売上：(増加) - (減少)

	全体		卸・小売業		製造業		サービス業		飲食・宿泊業		建設業		運輸業	
	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し	前年比	見通し
業況	-25.0	-50.0	-33.3	-100.0	-66.7	0.0	100.0	100.0	50.0	14.3	-100.0	-100.0	-60.0	-100.0
売上高	-28.6	-42.9	-14.3	-66.7	-55.6	-60.0	0.0	0.0	50.0	0.0	-66.7	-100.0	-75.0	-50.0
採算	-65.9	-80.0	-66.7	-66.7	-77.8	-100.0	0.0	-33.3	-42.9	-60.0	-75.0	-100.0	-100.0	-100.0
仕入単価	-100.0	-96.2	-100.0	-81.8	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0
従業員	83.3	100.0	100.0	100.0	60.0	100.0	100.0	100.0	33.3	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
設備	50.0	55.6	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	20.0
資金繰り	-73.9	-73.9	-100.0	-66.7	-100.0	-100.0	100.0	100.0	-100.0	-50.0	-100.0	-100.0	-100.0	-100.0

※前年比…2023年7月～9月と前年同月の比 見通し…今後3ヶ月（2023年10月～12月）の見通し

会員の声

【卸・小売業】

◇人手不足で新規事業にまわしたいが仕入高で不安。

【製造業】

- ◇原油価格高騰により仕入価格の上昇が止まらない。
- ◇9月はインボイス関係の印刷物の需要が増加した。10月中までは増加傾向が続く見込みである。
- ◇元請けが、カーボンニュートラルの取り組みによる影響と、原油価格高騰や物価高騰などが考えられる。

【サービス業】

◇販路拡大に伴う売上増加の実績あり。

【飲食・宿泊業】

- ◇プレミアム付食事券参加店舗はお客さんが増えています。飲食店は、人手不足の所が多い！
- ◇物価高騰の為、売上があっても仕入が高いので、なかなか純利益が見込めない。
- ◇酒、食品等の仕入価格が上がり、利益が薄くなっている。（値上げを検討中）
- ◇プレミアム付食事券のお陰で食事に来る方も多く非常に助かっている。

【建設業】

◇材料などの高騰により全体価格が上がってきて、お客様が注文を控えるようになった。

【運輸業】

- ◇円安、原油価格の高騰による物価上昇に加えインボイス制度導入による生活費や事業費への圧迫が懸念されます。
- ◇インボイス制度の導入、働き方改革、原油価格高騰など中小企業、個人事業者には人手不足は深刻な日々が続いています。
- ◇人件費及び原油価格高騰により、厳しい経営環境が続いている。料金改定を進めていかないと事業継続が困難となる。2024年問題は目の前であり、労働者不足は大きな課題となっている。
- ◇業界内の慢性的な運転手不足、それに伴う割増賃金の増加。24年問題を見据えた賃上げ交渉に対する、顧客対応が不十分。顧客の業績不振。

いる。売上高D-I、仕入単価D-I、資金繰りD-Iは▲100%（全事業者が悪い）と回答。

今後3カ月の先行き見通しは売上高D-I、採算D-Iはマイナス幅が拡大（悪化）して▲100%（全事業者が悪い）と回答。すなわち、材料の高騰による価格上昇が買い控えになり、売上減少になったと報告有。

【運輸業】
前回の調査に比べて業況D-I、

資金繰りD-Iのマイナス幅は拡大（悪化）している。採算D-I、仕入単価D-I、資金繰りD-Iは▲100%（全事業者が悪い）と回答。

今後3カ月の先行き見通しでは、業況D-Iのマイナス幅は拡大（悪化）して▲100%（全事業者が悪い）と回答。すなわち、原油価格高騰、人件費等の費用高騰の上、人材不足やインボイス制度への不安があるとの報告有り。

ウンド需要の増加で好調な一方、円安等輸入部材の価格高騰で悪化している製造業など、各業種でまだ模様になったものも、エネルギー価格の高騰によるコスト増や深刻な人手不足等、業種間や課題は山積しており、中小企業の業況は4ヶ月連続で足踏みが続いている。（商工会議所LBOO調査9月）

【卸・小売業】
前回の調査に比べて業況D-Iのマイナス幅は縮小（改善）している。売上高D-I、採算D-I、仕入単価D-I、設備D-Iのマイナス幅は拡大（悪化）、そのうちの仕入単価D-Iは依然として▲100%（全事業者が悪い）と回答。

しているが、採算D-I、仕入単価D-I、資金繰りD-Iは▲100%（全事業者が悪い）と回答。

原油価格高騰により仕入価格の上昇が止まらないと報告有り。

【サービス業】
業況D-Iが改善して100%（全事業者が良い）と回答。

仕入単価D-Iは前回に引き続き▲100%（全事業者が悪い）と回答。

今後3カ月の先行き見通しでは、採算D-Iのマイナス幅が拡大（悪化）する見込み。

販路拡大に伴う売上増加の実績ありとの報告有り。

【飲食・宿泊業】
前回の調査に比べて業況D-I、売上高D-Iはプラスに転じ、採算D-Iのマイナス幅が縮小（改善）している。マイナス幅が縮小（悪化）した項目は先行き見通しでは、業況D-I、売上高D-I、採算D-Iのマイナス幅が拡大（悪化）する見込み。

【建設業】
前回の調査に比べて業況D-I、売上高D-I、採算D-Iは縮小（改善）して▲100%（全事業者が悪い）と回答。